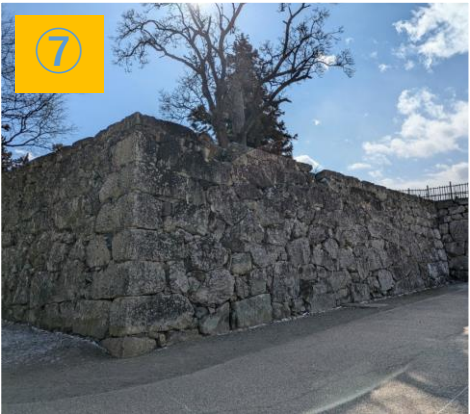
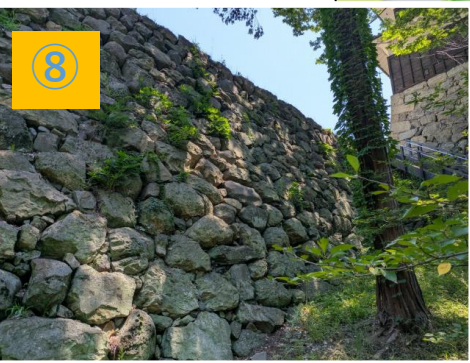


上田城石垣MAP

～楽しい発見！ 上田城と石垣の魅力～



上田城石垣 MAP



旧市民会館の解体工事のため一部通行規制となります。

①護岸のために築かれた

ごがん

尼ヶ淵東側の石垣

あまがふち



<石垣データ>

積み方：打込ハギ

石積工法：布積崩し

石材：緑色凝灰岩・安山岩 他

築造時期：松平忠愛期

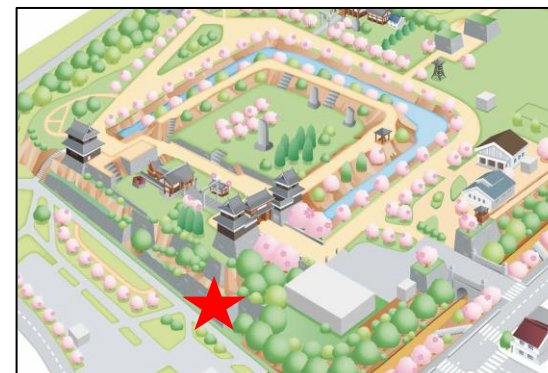
(江戸中期1730年代)

※近代以降の積増・補修あり

上田城の南側は尼ヶ淵とよばれ、江戸時代にはこの場所に川が流れていました。

川と断崖絶壁で敵が侵入するのが困難なこの場所にどうして石垣が築かれたのか？

その目的は、川を流れる水の力で城の土台となる土や砂の部分が浸食されるのを防ぐためです。護岸のために築かれたという、全国の城のなかでも珍しい石垣です。

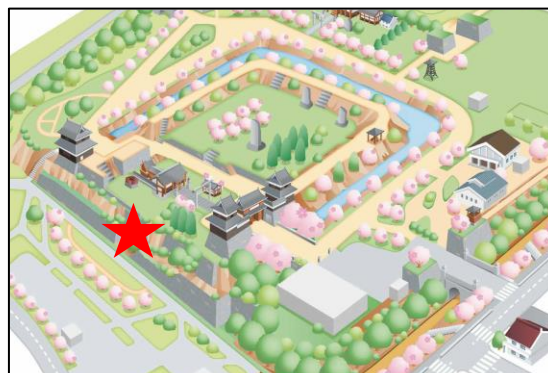


▲尼ヶ淵東側で南櫓の下

②タモリさんも驚いた！

あまがふち

尼ヶ淵 中央の石垣



▲尼ヶ淵（真田神社下の石垣）

尼ヶ淵の崖は真田・仙石・松平の時代を通じて、上田城の守りの要として重要視されました。写真の算木積みの隅石列さんぎつ すみいしれつが残る部分は、ここでは一番最初に築かれた石垣とも考えられ、大きな石垣の中に小さな石垣が埋まっているかのように見えます。NHK「ブラタモリ」でタモリさんは、この石垣を尼ヶ淵の「船着き場」に関わるものではないかと推測しました。

<石垣データ>

積み方：野面積

石積工法：布積崩し・乱積

石材：緑色凝灰岩・安山岩

築造時期：仙石忠政期か
(江戸前期1626年頃)

※近代以降の積増・補修あり

二の丸（北）の石垣



櫓門が建つはずだった柱の礎石（基礎）

<石垣データ>

積み方：野面積み・打込ハギ

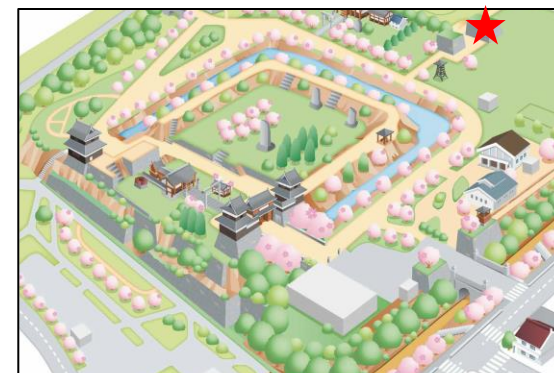
石積工法：布積崩し

石材：緑色凝灰岩

築造時期：仙石忠政期か
(江戸前期1626年頃)

※データは北側石垣の南面

上田城の南は千曲川に守られ、城に入るためには北・東・西の3か所に限定されていて、北の守りの要として石垣が築かれていました。現在、見ることができる石垣は平成2年と5年に復元されたもので、かつて虎口だったものが、平行な石垣になっています。石垣の根元を見ると、四角く平らで大きな石があります。この石は江戸時代に上田城を復興した仙石忠政がここに櫓門を建てるため、柱を支える基礎として据えたと考えられます。しかし、忠政が病で倒れると、この場所に櫓門が建てられることはありませんでした。

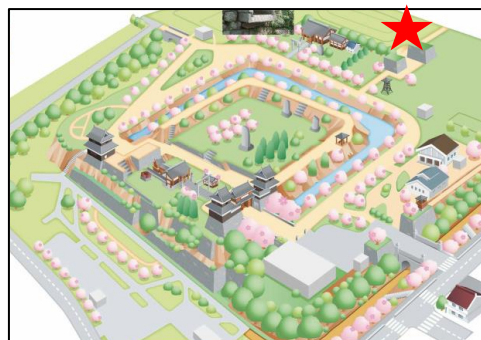


▲愛の鐘や憩いの広場を北に抜けた先

⑤日本一有名！？な

石樋

いしどい



▲北虎口の石垣から運動場に下った所

運動場の入口手前に大きな石の穴があります。これは、江戸時代に造られた水を通すための排水口で「石樋」と呼ばれるものです。

現在の運動場と児童遊園地は江戸時代にはそれぞれが大きな堀で、真ん中に土橋がかかっていましたが、児童遊園地側から運動場の方に水を通すための排水口の跡になります。

初めは木製で、度々壊れてしまったことから、江戸幕府に願いでて石製のものに修理した記録が残っています。城マニア・観光ライターのいなもとかおりさん曰く「日本一有名な」石樋。

<石垣データ>

積み方：野面積・打込ハギ

石積工法：布積崩し、乱積

石材：緑色凝灰岩、安山岩

築造時期：仙石忠政俊
(1702年頃)

※築造時期は石樋が造られた時期

真田石



<石垣データ>

積み方：野面積・打込ハギ

石積工法：布積崩し

石材：緑色凝灰岩・安山岩

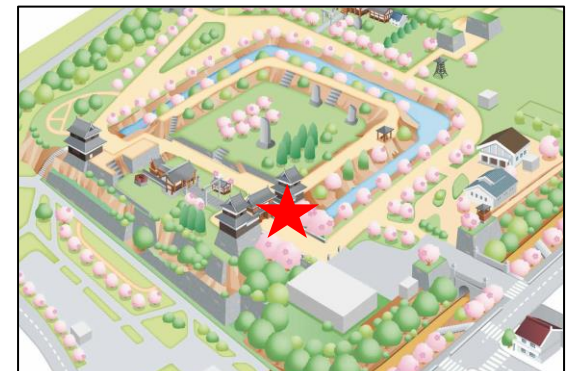
築造時期：仙石忠政期か
(江戸前期1626年頃)

さなだのぶゆき

真田信之が松代に移封の際に父の形見として運ぼうとしたが不動であったという伝説にもなった巨石。この伝説の真実性はともかく、真田氏への敬愛の念がうかがえる話です。

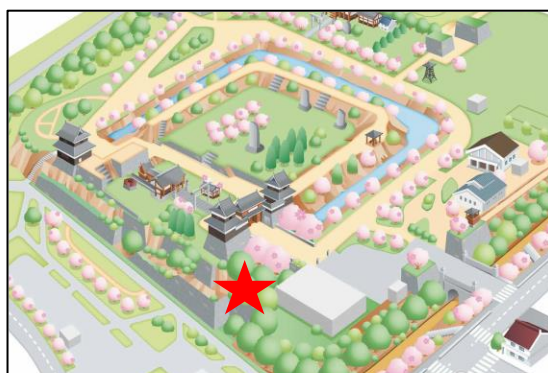
「真田石」に限らず城郭の門などに見映えする大石を配置する、いわゆる「鏡石」^{じょうかく}の例は多く見られます。

裏を見ると、意外と薄いので、実物をのぞいてみよう。



▲東虎口櫓門の石垣

本丸南の水のない堀の水を通す穴 (石樋)いしどい



▲東虎口櫓門に向かう橋から南側

東虎口櫓門に向かう橋から、向かって左側（南の崖側^{がけ}）には、水が入っていない空堀があります。その崖側の石垣に水を通す穴（石樋）があります。

「昔は水が入っていたから！」とも考えられますが、昔のお城の様子を描いた絵図にも水がかかれていないため、なぜここに石樋があるのか上田城の謎のひとつです。

<石垣データ>

積み方：野面積・打込ハギ

石積工法：布積崩し

石材：緑色凝灰岩

築造時期：仙石忠政期か
(江戸前期1626年頃)

⑧「櫓門復元の鍵を握る凹み」と「謎多き転用石」

にしやぐらそでいしがき

へこ

西櫓袖石垣の2つの凹みと

ごりんとう

てんようせき

五輪塔の転用石

<石垣データ>

積み方：野面積・打込ハギ

石積工法：布積崩し

石材：緑色凝灰岩

築造時期：仙石忠政期か
(江戸前期1626年頃)



◀五輪塔イメージ
画像の上から3番目
「火輪」が転用石と
して使われている。

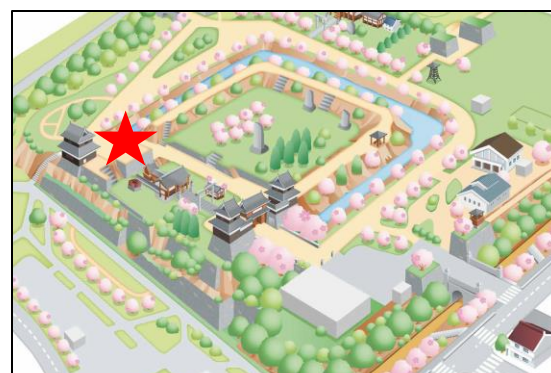


2つの凹み はり

かつてあった櫓門の梁を通すための凹み。この凹みから、櫓門の位置や高さ、梁の太さ等を検証する材料になります。周辺の石をよく見ると柱で丸くすり減ったような跡があります。

五輪塔 転用石

お墓や供養塔として使われる五輪塔の、「火輪」が小詰めとして使われている。宗教的な要素も含まれる転用石がどうして使われているのか具体的な理由は分かっていません。

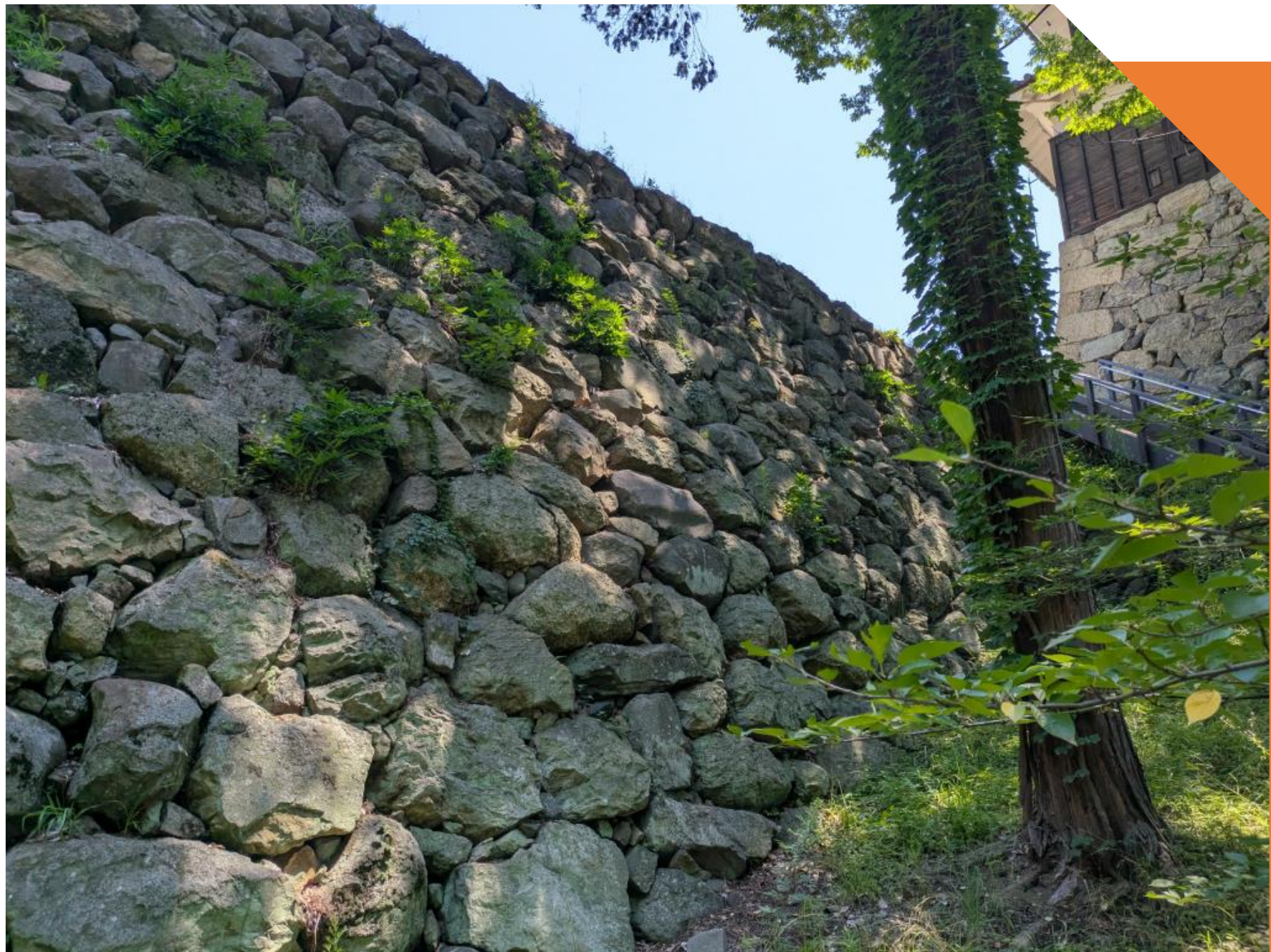


▲西櫓横の石垣（真田神社裏の石垣）

⑨石垣の迫力を間近で見ることができる

西櫓横の階段脇の石垣

わき



<石垣データ>

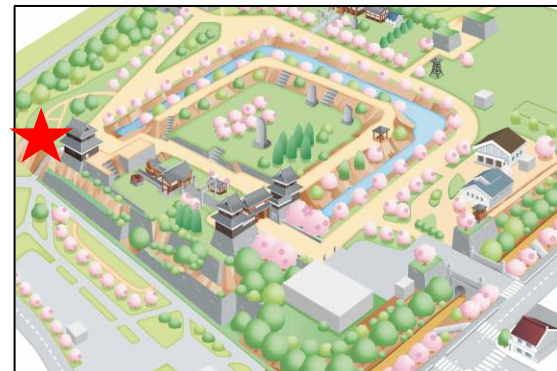
積み方：野面積

石積工法：乱積

石材：緑色凝灰岩・安山岩

築造時期：仙石忠政期か
(江戸前期1626年頃)

西櫓横の階段の西側にひっそりとある石垣。西虎口から本丸に入る土橋だった部分の石垣。



上田城の「歴史の重なり」を伝える正面玄関の石垣

二の丸東の石垣

<石垣データ>

積み方：打込ハギ・谷積・乱積

石材：安山岩・緑色凝灰岩

築造時期：仙石忠政期か

(江戸前期1626年頃)

※ほぼ近代以降の積み直し

江戸時代、二の丸に入る土橋を渡ってきた敵を石垣で挟み、正面にあった石垣とあわせて、四方八方から攻撃する守りの構えの一部であった石垣。その後、明治時代になってこの石垣は破壊されたり、一部積み直しをされながら、現在に残っていることが古写真や発掘調査等で分かっています。明治以降、お城の役割が終わり、上田城が公園として整備されていくと、今度は「入場ゲート」として、現在まで、多くの人を迎え入れた「重層的な歴史がある」上田城の象徴となる石垣です。



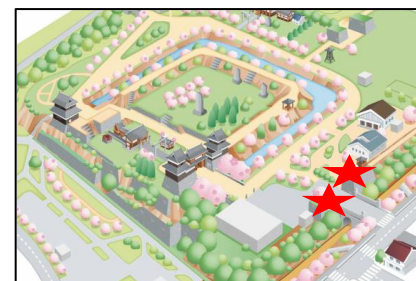
石垣（左）

発掘調査等の結果から画像の①が明治以降の積み直し、②が江戸時代の石垣の可能性が高い場所、③江戸時代の石垣の石材で積み直した場所の可能性が高いと推察されます。



石垣（右）

斜めにギザギザになるような積み方は、上田城の場合 幕末まではない積み方のため、幕末以降に積み直されたと推察されます。



▲二の丸橋を渡ってすぐ

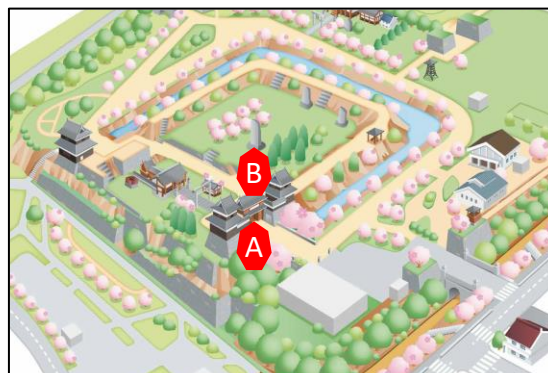
上田城初!!

東虎口の双子石

A 南櫓台石垣 櫓門の柱付近



B 北櫓台石垣 門をくぐって
右手側



▲東虎口櫓門の周辺

東虎口にある二つの石、なんだか似ていませんか？
この二つの石は、双子石と呼ばれる、もともとひとつの石
だったんです！2つの石の下に共通して見えるギザギザの模
様は、江戸時代に石を2つに割る際に“クサビ”を打ち込んだ
跡で、ギザギザの数や位置が双子石では一致します。
来場者からの情報をキッカケに、上田城トークショーに向け
て調査した結果、上田城で初めての双子石が発見されました。